

ウガンダでの活動報告

※アフリカのウガンダで支援活動をしている滋賀大学経済学部4回生(休学中)の高橋成治さん(2)から本紙に投稿があり、以下で紹介する。

者と生活する方々に対する経済的・精神的支援を行う団体です。

12月4日、我々はウガンダの副大統領エドワード氏や政府の重役を招き、AIDS Candle Light Day、というイベントを

開催しました。そのイベントを通して多くの参加者にHIV/AIDSについての知識を伝え、感染検査を行いました。中には陽性の方もおり、カウンセリングと処方せんを提供しました。

現在、私はアフリカ・ウガンダのNPO団体で11月中旬からインターンシップを行っております。

インターン先はルコヘコ(正式名 LUNGJJA COMMUNITY HEALTH CARING ORGANIZATION)と呼ばれる団体です。2005年カンパラ市ルングジャ区に設立され、主にHIV/AIDS(ヒト免疫不全ウイルス/後天性免疫不全症候群)に対する正しい認識・支援を提供しています。また、それ以外の病気の方々・孤児・障害

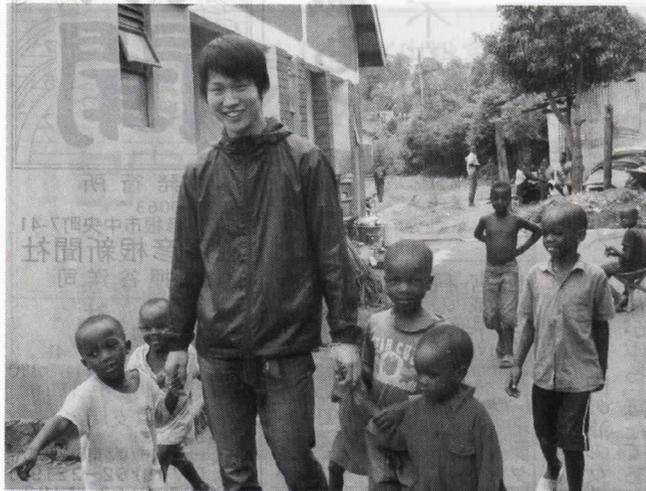
副大統領は我々の活動に大変興味を持たれ、今後支援をしてくれるとおっしゃいました。これをきっかけに多くの人を助ける事ができると思うと、自分の事に非常にうれしく思いました。

このイベントを通し、ルコヘコは大きな歩を踏み事ができました。しかし未だに財務報告もなかなかとした活動報告もありません。資金も職員の仕事を支えるので一杯です。

私は現在ここで大学での専門性を生かし、財務部長をやらせていただいております。まだ学生の身分であるため未熟では

ありますが、先日ルコヘコで初めての財務報告書を財務局のスタッフと協力して作り上げました。些細な成果ではありますが、ウガンダの人と一緒に作り上げることができた事が非常に光栄です。

このイベントで副大統領とウガンダを変えたいと誓いました。自分の力は



ウガンダの子どもたちとふれ合う高橋さん(高橋さん提供)

小さくとも同じ思いは持つ事はできます。

実際にエイズと癌と同時に闘っている1歳の子供を持つ男性を訪問したとき、自分の無知さと無力さに悔しくて泣きまわった。その深刻さに絶望してしまいました。

そんな矢先、ホストファミリーもマリリアにかけり苦しんでいました。ますます身近に感じ、眠れない夜もありました。

自分ができる事は何か無いかと毎日問い続けています。この活動を通じて自分自身がウガンダの少しでも力になれることを信じて現在活動に励んでおります。

私たち日本人は以上のような社会問題について何を知っているでしょうか。病気で亡くなる方がいるのは知っているのに、それに対して見ぬ振りをしてきたのではないかと、自問しました。

アフリカではHIV/AIDSの感染者が多いイメージがありますが、それは日本人に知識や関心があまり無いだけで、アフリカのように多くの人が検査をすれば日本人の方が多いこともありえるかもしれません。決して他人事ではありません。しかし我々もアフリカに貢献できる何かがあると信じています。

拙い文章ではありますが、これを通して少しでもウガンダ及びルコヘコに興味を持っていただけたら幸いです。また、少しでも協力したいと言う方がいたら一報をいただくと非常にうれしく思います。

海外インターンシップに参加する事を心からお勧めします。人の将来を変える事ができる活動がここにはあります。

(Seiji Takahashi 〓 seiji12735@yahoo.co.jp)